

## 鶴見区区政会議 平成29年度第2回こども教育部会

### 1 日時

平成29年9月22日（金） 19時00分～20時15分

### 2 場所

鶴見区役所 4階 402会議室

### 3 出席者

（委員）

西岡部会長、前川委員、宮田委員、猿渡委員、木本委員

（区役所）

河村区長、田中こども・教育担当課長、大川こども・教育担当課長代理、

松井子育て支援・保健担当課長、貴田子育て支援担当課長代理、

日下保健福祉課担当係長、杉本地域活動支援課担当係長

### 4 議題

（1）平成30年度鶴見区の取組みの方向性について

### 5 議事

開会 19時00分

○日下保健福祉課担当係長 では、7時になりましたので、ただいまから鶴見区区政会議平成29年度第2回こども教育部会を開催いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、保健福祉課担当係長の日下でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それではこれより議事進行を西岡部会長にお願いいたします。

部会長、よろしくお願いいたします。

○西岡部会長 部会長の西岡です。

本日、皆さんお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。本日の部

会ですが、現在のメンバーでは最後の部会となります。どうかよろしくお願いたします。

それでは、早速ですが、議題1、平成30年度鶴見区の実施の方針について、事務局から説明をお願いいたします。

**○日下保健福祉課担当係長** まず、私の方から説明します。資料を1枚めくっていただきまして、子育て支援の充実になります。

これまでの実施の目的としまして、子育て層の交流、児童虐待の早期発見と防止、待機児童の解消など、状況に応じた適切な支援、相談、情報提供等、子育て支援に取り組むこととしておりました。

実施実績としましては、資料の4番目をご覧ください。鶴見区幼稚園・保育所等情報フェアを本年度初めて開催いたしました。これらを受けまして現状、課題といたしましては、まず子育て層の交流の場としての、つるみっ子ルームにつきましては、昨年度の4月から8月に比べまして、本年度の4月から8月は、利用者が増加している状態でございます。

児童虐待の相談件数につきましては、微増の状態推移してございます。

市長の公約でございます待機児童ゼロを目指した実施というのが必要であると思っております。

情報フェア、先ほど申したのですが、9月2日に実施いたしまして、こちらへは約500世帯の来場がございました。非常にニーズが高いと思っておりますが、開催の場所ですとか、時間等については今後工夫の余地があると考えております。

また、子どもの貧困の連鎖を断ち切るための実施を進める必要があると考えております。

これらの現状、課題を鑑みまして、平成30年度の実施の方針としましては、子育て層の支援のため、交流の場や情報交換の場のさらなる充実、児童虐待防止啓発活動の継続、待機児童解消に向けた実施を継続して行います。方法としましては、

まず保育環境の充実に向けた保育施設への働きかけ、もう一つとしまして、今年度初めて実施しました鶴見区幼稚園・保育所等情報フェアの充実を考えております。

また、子どもの貧困対策としまして相談支援及び子どもの学習支援事業の実施を考えております。こちらにつきましては、来年度は小学生を対象に行いたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○杉本地域活動支援課担当係長**　　続きますして次の教育支援の充実を説明させていただきます。

これまでの取組みとしまして、さまざまな機会を通じて学校ニーズを把握し、児童生徒のスムーズな学校生活と学力の向上を図ることを目的に実施してきました。

取組実績としましては、教育行政連絡会や学校協議会、校長会、教頭会の場でご意見、ご要望を聞き取ったり、意見交換するなどにより、学校ニーズを把握し、そういった場でのニーズに応えるために、校長戦略支援予算、それから発達障がいサポーター、これらを活用した小中学校の支援を行ってまいりました。具体的に、校長戦略支援予算は漢字能力判定に向けた取組支援や、課外活動時のサポートを行う教育活動サポーターの配置、英語講師の配置や英語教材の整備などを行ってきました。

また、発達障がいサポートにつきましては、今年度各校に配置している発達障がいサポーターの稼働時間を大幅に増やし、支援を行ってきました。

また、民間事業者を活用した課外学習支援事業ということで、個別指導つるみ塾、こちらの塾を10月2日から開講いたします。こちらのほうは茨田北中学校の図書室で、区内中学校全生徒を対象に学習支援を行うというものです。国数英の3教科を月1万円で受講でき、1人の講師につき生徒5名以下の少人数制で指導するというものです。

次に、現状と課題ですが、まず現状としましては、学校との連携が図られ学校の要望に応じた支援、発達障がいサポーターの稼働時間を増加、英語学習支援や教育サポ

ーターの配置などが行えてきています。

課題としましては、学校地域、家庭とさらに連携し、学習への興味や、学力向上に向けた取組みが必要であると考えています。

そこで、平成30年度の方組みの方向性ですが、基本的には継続実施ということで、校長戦略支援予算を活用した小中学校の支援、発達障がいサポーターを活用した小中学校の支援、こちらは29年度に大幅に拡充しました。これを引き継いで、継続し、実施していきたいと思っています。

それから、10月から実施します民間事業者を活用した課外学習支援事業、塾の実施を継続実施、これに加えて新たに生涯学習と連携した家庭教育に関する取組みを実施していきたいと考えています。

以上です。

次ページ、学校と社会を結ぶ、こちらはこれまでの取組みとしまして、まず企業やスポーツ選手などの持つ専門知識や貴重な経験などを区内の小中学生に伝え、次世代を担う子どもや青少年の将来への夢を膨らませることを目的に実施しております。

取組み実績としましては、青少年の夢・未来講座の開催、小中学校への出前講座の実施です。こちら平成29年9月現在で9校101件のマッチングを行っております。実際の授業というのは3学期に実施するものもあるんですが、マッチング自体は9校101件のマッチングを行っております。

今年度新たに大阪ガス、鶴見消防署、汎愛高校ダンス部にも協力いただいて実施をしております。

現状と課題ですが、まず現状は夢・未来創造事業を通じて、興味、関心が高まったと回答した児童の割合は96%、こちらは28年度のアンケートの結果です。このように児童の満足度及び学校のニーズが高いということが現状です。

課題としましては、企業等が出前授業実施できる回数に限りがあるということが挙げられます。

そこで、平成30年度の取り組みの方向性ですが、夢・未来創造事業の講座の開催としまして、学校からの要望に対応できるよう協力企業やメニューを増やししながら、実施、拡充していこうと考えています。

続きまして、青少年育成の取り組みですが、これまでの取組みとしまして、歌やダンス、吹奏楽等の活動をしている区内の中学生、高校生や青少年グループに、日ごろの活動成果を発表する機会を提供するとともに、学校、地域、保護者と連携して、青少年の健全育成を図ることを目的に実施しています。

取り組み実績としましては、高校軽音ライブクリーンプロジェクト、こちらのほうは会場数を増やすなどして、実施してきました。青少年カーニバル、こちらは鶴見ワールドフェスタと同日開催、10月9日に開催予定です。よって、相互のイベントの集客力アップを図りながら、実施する予定です。

また青少年健全育成鶴見区民大会、こちらの2部を中学校吹奏楽部の活動発表の場として開催するなど工夫しながら実施をしてまいりました。

現状と課題ですが、まず高校軽音ライブクリーンプロジェクトですが、会場や参加校を増やして実施、鶴見緑地公園の清掃活動が評価され広がりを見せているということで、今年度48組の参加があったんですが、3日で埋まるような状況でした。

青少年カーニバルですが、午前はメチャハッピー祭りの鶴見緑地会場として大阪府下のダンスチームが参加しています。午後の部は、区内で活動する歌やダンスチームによる演奏、演舞などを行っているんですが、毎年同じような参加チームとなっているということが、課題であると認識しております。

続きまして、青少年健全育成鶴見区民大会ですが、こちらは学校、地域、各種団体の委員など、関係者への意識啓発、及び青少年健全育成に関するタイムリーな講演、青少年の活動発表の場の提供により、来場者への効果的な啓発活動が行えていると思っております。

そこで、平成30年度の取り組みの方向性ですが、まず活動発表の場の提供としまし

て、高校軽音ライブクリーンプロジェクトですが、こちらは会場や清掃場所を増やすなど検討の上、実施していく予定です。

青少年カーニバルですが、こちらはセミプロのゲスト出演や、ほかのイベントとの連携など、平成29年度の実施を検証の上、継続実施していく予定です。

最後に、青少年健全育成としまして、青少年健全育成鶴見区民大会、こちらの1部は学校、地域、各種団体の委員と関係者への意識啓発の場として、また2部では、中学校吹奏楽部の発表の場として、必要不可欠な事業として継続実施していきたいと考えております。

また、青少年指導員や福祉委員と連携しまして、非行防止啓発活動や子ども110番月間の取組みなどは引き続き実施していく予定です。

以上です。

**○西岡部会長**      ありがとうございました。

それでは今の説明についてですが、ご意見はございますでしょうか。どなたか。

**○猿渡委員**      質問もよろしいですか。

1ページ、資料のうちの30年度の取組みの方向性の中の子どもの貧困対策として相談支援、このイメージがちょっとわからないので教えていただきたいのと、学習支援事業というものと、次のページの教育支援事業というのは、全く別のものなのかどうかと、その学習支援の形態というかイメージを教えていただきたいんですけども。

**○杉本地域活動支援課担当係長**      子どもの貧困連鎖を断ち切るための取組みなんですけど、こちらのほうは、小学校での学習支援、普通教室に入れなくて、保健室とか別教室で授業を受けている小学校の児童向けに学習支援を行うと、学校に出向いて普通教室ではない別教室で学習支援を行うと。それに加えて、相談支援ということで、心のケアもあわせて行っていければなというふうに思っています。

次の、学習支援との違いというところは、この10月から始めようとしています民間事業者を活用した課外学習支援事業なんですけど、こちらは、区内の全中学校の全生

徒を対象に、塾のような形式で、区内の生徒が茨田北中学校に通って受講していただくと、こちらのほうは国数英と3教科なのですが、今大阪市のほうでは、所得の低い世帯の中学生に1万円の塾代助成カードというのが発行されています。その塾代助成カードを使うと月1万円の受講なので、実質無料で受講することができるということで、このカードを使うことも可能です。当然持ってない方も受講できるということ、対象は中学生と小学生の違いというところになっています。

**○猿渡委員** もう一つ、質問よろしいですか。

子どもの貧困対策としての学習支援事業ということで、お話を伺っていると不登校の児童に対してとか、教室に入れない子どもたちに対しての学習支援事業というふうに受け取れるんですけども、そこは何か共通項があるというか、お考えがあつてのことということでしょうか。

**○杉本地域活動支援課担当係長** このように普通教室に入れない子どもというのは、進学のこととか就職のこととか、将来的に貧困に結びついてくるというところで、それを事前に食いとめると言いますか、学習支援や。心のケアをすることによって、将来的な貧困をなくすという目的で実施を考えています。

**○松井子育て支援・保健担当課長** もう少し、つけ加えてお話させてもらいますと、前回は部会で恐らく私のほうから、今回貧困対策ということで、24区で一応取り組んでいくという形で、話をさせてもらったかとは思いますが。重点という言い方をするんですけども、区の予算というのとは別枠で、ちょっと何かやっていくというような形で、今それについては、小学校、中学校といろいろと話も聞きながら、どういうことを取り組んでいくのが一番、費用対効果も上がるのかどうかということで、進めていきますという話もさせてもらったかとは思いますが、いろいろ中学校とか小学校とか、いろいろターゲット、校長先生なりに話を聞きまして、中学校もちょっと考えてたんですけども、中学校は深く相談とか学習とか入ってもらわないと結構大きな子どもなので、中途半端で入ってもらっても、なかなか難しいねというこ

とで、今回小学校にターゲットを当てたんですが、小学校は今、校長先生に話を聞くと、何が困っているかという、そういうやはり一緒に授業についていけない子どもが保健室におられたりとかいうので、その辺を先生方が合間に教えたりとか、現在しているけれども、そういう手助けなんかをしてもらったら非常にありがたいし、そういう落ちこぼれなんかを底上げできるよね、というのがあって、今その辺で小学生向けに相談支援、子ども学習支援の実施に向けて、予算を取りにいこうかと思っています。これは予算が重点予算なので、取れるかどうかわからないんですけども、もし取れなくても、何らかの形で、ちょっとやっていきたいなと今のところは考えているところです。

○河村区長　　子どもの貧困対策というふうに書いているので、ちょっとその辺の射程距離が、どうなのかという疑問だとは思いますが。

○猿渡委員　　広義の貧困対策としては全然入るといえるか。

○河村区長　　だから貧困対策、貧困につながるような事象であるとか、その原因となっているような事象を解決しようということで、30年度はこういうメニューでいこうかということです。狭い意味での子どもの貧困対策という、ちょっとずれてくるかもしれないんですけど。

○猿渡委員　　ありがとうございます。

○西岡部会長　　あれですかね。校長先生がよく来るんですけども、小学校と中学校はかなり問題が違ふと思います。やはり同じ子どもだといっても年齢の差で、その中で小学校の場合は特にそういう子どもたちは、教頭先生とか校長先生ですね、時間の空いてる先生がそれをやっているという状況で、その中で、授業を持ってないので時間は空いているけれども、時間的には空いてることはないというような話をよく聞くんではないですか。その中で、今回このような取組みをしていって、学校全体として校長先生の仕事、教頭先生の仕事というものをスムーズにやらせよう。それで学校全体がよくなっていけばというように取らせてもらっていいかなと思うんです。その中で



今言ったように中学生の場合は、ちょっと問題がかなり違うんで、よく知った先生が、わかっている先生が指導とか、いろんな形をやった方がスムーズにいくんじゃないかというのも聞いているところがあるので、そういう形で理解させてもらってよろしいですか。ありがとうございました。

そしたら、ほかにはございませんか。

それでは、すみません。私からですけれども、子育て支援なんですけれども、児童虐待の件数ですね、微増で推移しているということで、現在の件数というのは大体どれくらい。数字として挙がってきてるのは、どれくらいの。

**○貴田子育て支援担当課長代理** 28年度中のものとしまして、児童虐待の相談としましては、鶴見区内ですけれども、134件と認識しております。

**○西岡部会長** 27年とかは。

**○貴田子育て支援担当課長代理** すみません。微増と言いながら27年につきましては140件です。その前が111、133、144と上がってきてまして、ちょっと28年度につきましては134ということで、少し落ちてはいるんですが、全体的な流れとしては増えている傾向にあるのかなと考えております。

**○西岡部会長** これも申しあげたら何ですけれども、昔はなかなかやはり児童虐待の通報とかは、そんなんは、しにくかった状況があったと思うんですけれども、今いろいろところで、情報発信ができるというようなことで、それで多くなってきたというのは考える中であるんですかね。

**○貴田子育て支援担当課長代理** そうですね。啓発をして、とにかく気になったら通告してくださいと、それがその人たちを救う一手になりますということで、一生懸命やったことによって増えているんだと。要するに今まで見えていなかったものが顕在化しているということでの増というふうには捉えてはおりますので、見えている件数が減ればよいということではないと捉えております。

**○木本委員** これってね、警察なんかには通報とか入っているんですか。

○貴田子育て支援担当課長代理 はい、警察にもいきます。

○木本委員 全件が警察にいつているわけじゃないから、基本的に役所でとまっている場合もあって、あとは最後は警察が出張って行ってというものもあるよね。何かの加減でちょっとひどいから警察に来てくれとか。逆に警察が呼ばれて警察が行っている。で、後から入ってくるというものもあるんですよ。

○貴田子育て支援担当課長代理 そうですね。いろいろなケースが考えられます。

○木本委員 この前、少年補導の会議に行ったら、子どもがかけてきたというからね、警察が行ったら、子ども自身が学校行きたくないからと反抗してね、たたかれて虐待されたという電話かけてきた、警察に。あえて親にたたかれたから虐待やと言って、行ったら学校行きたくないから、そう言ったら親にしばかれて電話してくるんですよ。そんなものもあるから、やはりその辺はちゃんと精査して、どういうふうに対応とるかっていうのは、してもらったほうがええかなと。結構子どもも、知恵があるから、自分が悪いのに親が悪いというふうにもって行く子がおるから、その辺はよく見きわめて対応をしてあげてほしいなと思います。

○貴田子育て支援担当課長代理 そういうケースもあるようには聞いておりますし、一方からだけではなくて、きっちりと。なかなかお話も聞けないような小さい子どもさんもいらっしゃいますけれども、普通にお話ができる子どもさんであれば、もちろん子どもさんの言い分も聞きますし、親御さんの言い分も聞きますしというふうなところでの対応はさせていただいております。圧倒的に親御さんに指導するケースのほうが多い状況ではありますけれども。

○西岡部会長 すみませんが、よろしいですか。子育て支援の充実のほうなんですけれど。この情報フェアですね。今年初めてされた、ここに約500世帯と書いてあるのは、人数的には500世帯で、何人ぐらいで来られて、開催場所とか時間の工夫をしようかというようなことになったんかというのを、説明をお願いしたいと思います。

**○貴田子育て支援担当課長代理** 実際、来られるのが、お一人で来られる方もいらっしやったんですけれども、ご夫婦で来られたり、子どもさん連れて来られたりというケースが多かったので500世帯、1,200人ぐらいというふうに想定しております。当初、300世帯を目標に、200世帯来られたらいいよねというふうに、内内では言っていたものが、もうその倍、倍以上というか500世帯近く来ていただきましたので、逆に3階の会議室でやりましたので、もうそこに人があふれてしまいましたので、せっかく来てくださったのに、満足にお話が聞けなかったであるとか、1つ目は聞けたけど、2つ目も並んでたら、次が聞けなかったりとかというようなことも、やはりアンケートの中には、お書きいただいています、日を分けて開催したらどうだとか、時間を延ばしてほしいとか、幼稚園と保育所に分けてほしいとか、いろいろなご意見を頂戴しておりますので、来年度、基本的には来年度も実施してまいりたいと思っておりますので、そここのところは、実際来てくださる施設のほうともお話をしまして、どういうふうにすることが、皆さんにとって、為になるというか、身になる会になるかというふうなことを考えた上で、来年度見直しというか、改善していただけるかなと考えております。

**○猿渡委員** 今年については割合とかは、わかるんですか。保育園のニーズ、幼稚園のニーズというのは、例えばどれくらいのニーズが両方にあったかわからずじまいですか。

**○貴田子育て支援担当課長代理** 一応、430世帯からアンケートの回答をいただいているんですけれども、そのうち、入所したいと思ってる施設の情報を聞きにきましたとおっしゃってる方がいらっしやったんですが、そのうち、どういう施設の情報を聞いたかお尋ねしましたところ、幼稚園が約160、保育所が300、小規模施設が34とか、そういうふうな具合になってますので、皆さん一方的に、ここだけということではなくて、幼稚園と保育所、両面で考えておられる方も、まだまだたくさんいらっしやるのかなというような状況になっております。

○猿渡委員 宣伝効果ありってことですね。

○貴田子育て支援担当課長代理 そうですね。

○猿渡委員 その情報提供がうまくいって、なおかつ非常に意識を持たれた、多分、僕なんかより全然若い世代の親御さんたち、いたと思うんです。僕、保育園で大分、高齢な親なんで、毎度お迎えなんか行ってるんで、若い親御さんたちでもやはり、保育園、幼稚園、その将来的なのか、この喫緊のかはわからないんですけど、預けたいというニーズをお持ちの意識の高い方々が非常に多かったということですね。

○貴田子育て支援担当課長代理 来年の春、入るだけではなくて、その次を考えていますというような親御さんも、やはりたくさん来られていたみたいです。当初は、とりあえずいろんな施設にポスターを貼らせてもらって、チラシを置いてっていうことは、させてはもらっていたんですけども、それでとめてたら区長のほうから、もっとちゃんと広報せなあかんやろというふうに、ハッパをかけられまして。

○松井子育て支援・保健担当課長 区長からは400世帯と目標は高く持てというふうな話がありまして、ポスターとかも貼っていたんですけども、やはり子育て支援室で、どうしたらもっと宣伝できるかということを考えまして、やはり口でしゃべるとというのが一番だということで、12福祉会館に説明に全部行ったりとか、あと1歳半健診とか、3か月健診とかいう形で、週に1回2回来られるんですけども、そこにチラシは入れていたんですが、入れているだけでは、やはり入ったままになってしまうんで、必ず、一番最初に今日の3か月健診で、いろいろ注意事項とか、こうやりますという場面がありますので、そこでちょっと話をするだけで、やはりそこから口コミが広がっていったのかなとはちょっと思っています。それとあとは、もともとニーズが高かったというのが。

○猿渡委員 次につながるんじゃないですか。僕、すごいなと思うのは、この500件で終わりじゃなくて、次の期待値やと思うんです。もっと期待できるのは、その区に対して、変な話、成功体験なんですよ結局。行ってよかったという思いが、また

次の人を生むわけで、すごく僕、すばらしい取組みやなと思って。次、もっと多分人  
来ると思うんですね。それ楽観的に言っているんじゃないで、僕は、大川さんとずっ  
と経験させていただいたんで、人来ないやろなから、こんなに来たというところまで、  
3年、4年かけて経験させていただいたので、多分減ることがないインベトになって  
いくんだらうなと。そしたら、それこそアンケートの結果が、拡充を求め、充実を求  
め、細かさを求め、とにかくいろんなニーズが掘り起こされていったんだらうなと思  
うので、すごく起爆剂的なイベントになったんじゃないかなと感じました。

○松井子育て支援・保健担当課長      ありがとうございます。

○河村区長      それぞれにとってウィンウィンのように、保護者さんにとったら情報  
が得られるというのもあるし、保育園とか幼稚園にとったら、言葉あれですけども、  
公共の場で自分とこのPRができるというのがあるし、行政にとったら、それで結果  
的に、そういう子育て支援なり、それが待機児童の解消につながれば一番いいんです  
けれど、3者にとって一番いい取組みだったかなと思っていまして、鶴見区だけと違  
って、よその区でも、こういう取組みをしてもらえれば、例えば城東区でもやってく  
れはったら、城東区の施設のことが鶴見区の人でも聞きに行けるということもできると  
思うんで、その辺の広がりも今後、できていったらいいなというふうに思っているん  
です。ただ、よその区からも結構関心を寄せていただいています、問い合わせもある  
ので、今後、広がっていくんじゃないかなと思っているんですけど。

○猿渡委員      ちょっと、この話ばかりではあれなんですけど、例えば自分の施設  
で入所説明会を開くときに、ほぼほぼ親御さんたちが、自分の施設のことを情報持っ  
て来られるんです。それは今インターネットで、ほぼほぼ調べがつくというか、だか  
ら、得ようと思った情報は、多分得られるんです。でも、常に不安で、もう口コミサ  
イトとか見たら、まあまあえげつないこと書いてあったりとかすると、ちょっとえっ  
てなったり、確実にそこの施設の方から話を聞くって、今までやと、そこの園に足を  
運ばんと無理というか、見学に行かせてくださいとアポイントを取って、見学会の日

にお越しくささいって言われて、その日に行ってという形やったのが、本当に欲しい情報が、手に取れるというのは、親御さんたちにとっては一番の安心材料やと思いますし、やはり直接、話聞いて、考え方が変わるとか、感じ方が変わるっていうのは、施設に見学に行っていたのは十分大事なことやと思うんですけど、でもその前段階で、選択の幅を、今ちょっと広過ぎるので、ちょっと狭めるなんか必要があるなと、それは取捨選択をちゃんとせなあかんという状態になってると思うので、情報はいっぱいあるので、それを自分たちで選んでいくときに、こういう取組みがあると非常に心強いかなというのは、すごく思います。

○西岡部会長     ほかの方もよかったら、何か。

教育支援なんですけども、30年度の取組みの方向性ということで一番下の生涯学習と連携した家庭教育に関する取組み、これは新規ということで、どういう形の取組みというのを、ちょっと。

○大川こども・教育担当課長代理     本来でしたら、運営方針に生涯学習があれば、そちらに記載をしたかったものなんですけども、29年度に関しては運営方針に生涯学習がありませんので、教育のほうに掲載させていただいたということです。

具体的には、こども教育担当では、学校教育のラインと生涯学習、人権、などに取り組むラインと一緒に仕事をしております。常々、学校協議会とか、先ほど言いました教育行政連絡会など学校との意見交換の場などで、どういうことが求められているかということ、先生方からお聞きしたり、学校協議会の場で委員の皆様からお聞きしたりということがあります。そのときにやはり家庭教育というところに着目したことをやっていかないといけないなという意見を、多く聞くようになってまいりまして、生涯学習というのは学校教育や家庭教育も含めた、学ぶこと全般を指しますので、学校教育だけではできない部分を、生涯学習の中で取り組むことができないかと、この間担当の中で検討してきました。

具体的なイメージとしては、PTAの方とか、もちろん生涯学習推進員さんと一緒

にやっていくということになるんですけども、内容的には例えば大人向けのものでしたら、「子どもの心に届く褒め方やしかり方」、「親子でストレスに強くなるためにはどうすればいいか」、「子どもの宿題とのつき合い方」、「子どもの心を育てるお金の話」、「子どもの睡眠を考える話」、あと親子向けとしては、「簡単な朝ご飯づくり」、「掃除の仕方」、「読書を通したふれあい」、「基礎からの体力づくり」、「スマホとのつき合い方」など、そういう本当に生活にかかわる部分で、親子を支援する必要があるということ、痛感することが増えてきておりますので、そういったところに着目して、取り組みができたらと思っております。

**○西岡部会長** P T Aというのが出てきて、僕も木本さんも P T A 経験者ということで、確かに今 P T A 自体が、昔とちょっと変わってまして、ちょっとしんどいところがあるかもしれません。昔はある程度、何かあれば協力しようかと、一緒にしようというような風習やったのが、今はもう極力やめたいと、いろんな行事はやめたいと、これ以上もってきえてくれるなというようなことが、学校の話聞いてると多くなってきてるといのもあるんでね。教育委員会自体も僕らが知ってる時代の教育委員会と、今かなり変わってましてね、その辺も大阪の変わりようの中に入ってることなのかもしれないんですけど、それを含めても、やはり子どもたちのために、いろんな形で連携できればいいんですが。さっきも言ったように、校長先生も教頭先生も仕事、仕事で大変な時代なんですね。昔はそれは当たり前やったんですけど、今は当たり前じゃないような時代になってきてますし、昔は教頭先生自体もそういうのを乗り越えて校長になるという一つの夢があったんですけど、今はそれがなくなっているような時代なんでね。それを含めて区のほうで、今後も教育に関するいろんなところに入っていくところがあると思うんで、そのような感じでちょっと話を聞いてあげていただいて、進めて、うまく連携をとってもらいたいと思います。

**○大川こども・教育担当課長代理** 学校教育だけでできない部分を何かできることがないかなというのをずっと考えてきてまして、P T A の役員さんとも少し話をしま

したところ、そういうのを自分たちでやっていくというのは、なかなか難しいんだけど、例えばテーマや内容を区が考え、それを一緒にやるというようなことだったらありがたいというお話もいただいたりしてまして、そういうニーズはきっとあるんだろうなと思いますので、そういう取り組みを30年度は頑張ったいなと考えているんですけども。

**○猿渡委員** 各小学校とかという単位でしょうか。単位がわかれば、その開催単位。

**○大川こども・教育担当課長代理** P T Aとの連携の場合は各小学校になる場合もありますし、全体になる場合もありますし、もっと大きく子どもたち集まれ、親子集まれみたいな形で開催することもありますし、その内容、メニューによって、やり方はいろいろになってこようかと思います。各校下単位でできれば、一番身近に感じてもらえるかと思いますので、理想的かもしれません。そういう実施の仕方のできるメニューと、大きなくくりのできるメニューと、いろいろ組み合わせてアプローチしていけたらなと思います。

**○木本委員** 校下の単位P T Aやったら、かなりP T A自体で事業があるから、それに追いやられて結構大変でしょ。区P T Aは区P T Aで、もうずっと事業決まってるのを、1年前から予定して段取りしてるんで、その辺はご存じやと思うんで。そしてP T A自体も単位で見たら温度差があるから、すごい前向きに行こうという単位もあれば、本当にもういいわというところもあるんで、その辺の線引きというのをもうちょっとよく見きわめて対応しはったほうが、みな均等に平準化してやるのはいいと思うんですよ。でも、やはり温度差があったら高いところは普通に前向いて行くけど、低いところはまた何か言ってるはぐらいしかとれへんところあるからね。その辺はもう少し、いろんな情報、P T Aの情報を聞いてもらって、特に区P T Aなんかは、役員とかに聞いてもらって、どうかというのを聞いてもらって、それでいろいろ学校のほうに行くとかしはったほうがええんじゃないかなと、特に小学校は。中学校はP T Aやけどまた別世界なんで、余り事業はないけど、自分たちの事業をやろうではないん



ですけど、やはり各単位の集合体なんで、またいろいろ違う部分があるんで、その辺はめりはりをつけて対応されたらなと思います。

○大川こども・教育担当課長代理　そうですね。情報を交換したりというところから、やはりやる必要があると思っています。なかなかP T Aの活動を全て知れてるわけではないので、ちょっとその辺の距離も縮めつつ、一緒に取り組んでいけたらと思っています。

○猿渡委員　さっき挙げられたテーマ、僕は全部興味がありました。日々子育てしてはる親御さんと接してて、子どもへの声かけであるとかで悩まれてる方、めちゃくちゃ多いですし、何で言わんでええこと言うてしまうんやろと思ってるお母さんがすごい多いですね。親子でストレス耐性が非常に低いから、学校の先生が大変になってる部分も多々見受けられますし、睡眠時間に至っては、むちゃくちゃですね今現在。高学年なんて1 1時 1 2時以降に寝る子どもたちは、普通に多くて、朝から学校でテンション上がるわけがない生活をされてて、それにはその理由はあるんですけど、もとの軸に戻す取組みが何もないので、ずるずるずるずると、特に長期休業なんかは、次の日、朝から学校がないというだけで、たがが外れてしまいがちな家は多いです。

そのスマホとの付き合い方でも今、キッズ携帯を持ってる子がほとんどいないですね。小学生は 아이폰 の時代ですね、今ね。僕 아이폰 ようわからないんですけど、ほんまに。何でしょう、やはりチャイルドロックかけるとかというのを、親御さんが技術や知識としてもっておられない場合は、もうフリーで何でもできてしまうし、SNS への投稿を平気で小学生が、中学生がやれますしという、おっかないねんぞと一応、僕は声をかけますが、家庭で持たせてるもんはね、禁止はできないわけですよ、僕もさすがに。

やはりそういうのもどっかで、啓発事業というか、これ必須の部分じゃないのかなというところを、どこかで何かこう学習できたり、知識として共有できたりとかせん

と、目に見えて、その子どもたちの生活環境というのは劣化すんじゃないかなと思うので、その確かに進める単位の話であったり、そのイベントの多さであったりとかいうのが、幾らでもあるんでしょうけども、何とかそのシリーズで、12回、月に1回区役所で何かとかいうのでも、極端な話ね、その単位が難しいんやったら、僕、動員もかけますしね、僕自身も来ますけど。何とか1人は、必ず来れるのであれですけど、何かやっていただけたら、物すごいありがたいなと。余り、これはそれこそ、耳にすることは多いけども、極論がたくさんインターネット上にばらまかれてるような何か、どれがいいとかっていうのをまた選ぶのが非常に難しい内容じゃないかなと思うので、僕自身は、この中身は切望します。ぜひ、今子育てしてる、中学生、小学生はもちろん、親御さん、特に呼びかけて、この話を聞いてほしいなと思います。

○河村区長　　今は教育支援という切り口で、これを書いているんですけども、さっきもあったように青少年健全育成という点での切り口もあれば、子育て支援という切り口もありますし、睡眠とか朝ご飯という意味でいうと、必ずしもそれが原因ではないんですけども、子どもの貧困ともかかわってくるかもしれませんし、そういう意味でいうと、生涯学習という広い範疇でいくのであれば、オール区役所として取り組んでいくべき課題かなというふうに思っていますんで、その辺やるとなれば、どういうふうにやるのか、十分考えてやらせてもらいたいと思っています。

○西岡部会長　　前川委員から、何か。

○前川委員　　2ページ目の教育支援の充実のところ、これまでの取り組みの下から、4つ目と3つ目の・なんですけども、校長会、教頭会へ参画されているということなんですけども、これは区役所が指示事項を出しに行ってるのか、聞きに行ってるのか、それと、もし、そういう校長さんとか教頭さんが、どんなことを悩んではんなんやろなということがあれば、こういう区政会議等で、また報告していただけたら、区政会議の委員さんなんかも、それなりのご意見も言われるんじゃないかなということも思いました。

もう一つ、その下なんですけども、校長経営戦略支援予算というのは、これは通っている学校の保護者の方は、どんなことに使っているかはご存じなんですかね、内容的に。それと、今、小6の児童は区内の中学校を選べるんですね。とすると、この校長経営戦略支援予算で、例えばA中学校は、こんなことに使ってる、B中学校は、こんなことに使ってるということで、年度によって、予算額によって使い道が違うと思うんですけども、特に小学校の5、6年生の保護者、PTAの訴える力にならないのかなという気はいたしました。

それと、何遍も僕、気になるんですけども、発達障がいサポーターというのは、大反対です、この言葉は。これ何遍も言いますが、これ自分が親やったら、絶対行かせませんよ、この名前やったら。ただの教育サポーターぐらいが、いいん違うかなと。最後のはひとり言にしといてください。

以上です。

**○田中こども・教育担当課長** 校長会ですけどね、小学校の校長会は月1回、定例で先生方が集まってされます。私どもは、そこへ行って、例えば学校に対していろいろなお願い事とか、調査とか、そういうのをお願いすることもあります。あるいは、今出てます校長戦略予算とか、そういうことでどんな形でこれを使いましょうとか、そういう相談持ちかけるとか、そういうこともあります。その中で意見交換するとかいうこともあるんですけどね。中学校なんかも、今まではブロックで校長会をやるので、区ではなかったんですけども、なかなかそういう機会ないものですから、私どものほうで毎月1回、集まってもらって、中学校の校長先生とも意見交換するということで、フリートキング含めて、いろいろさせてもらってるんですけど。その中でいろんな意見が出てきたことをもとに、こういう校長戦略予算とかにもつなげていってるんですけども。確かに会議の内容を区政会議で報告していくというのは、確かにそういう視点も、今までこう特に挙げてませんでしたので、ちょっと考えたいと思うんですけども、ただそれをもとにいろんな事業をうちは踏まえてやってきてるの

がありますので、これに参画することによって、本当に現場の先生方の意見とかそういうのを聞けるというのは、大きいですね。

それと、もう一つは、教育行政連絡会ということで、これはうちが主催をして、毎学期1回開催しているんですけども、小中それぞれ学校長に集まってもらって、意見交換とかすることもやっています。その中でいろいろお聞きすることもあるんですけども、そういう情報交換、これからも大事ですので引き続きやっていきたいと思っています。

あと、校長戦略予算につきまして、これも今の話とかぶりますけれども、基本的に学校のほうで、どんなことに使うかということ、相談していくんですけども、今うちがやっていますのは、学校でのサポーター、これは、いろんな教育活動において、教育活動サポーターとか、各種のサポーターとか、いろいろ区分があるんですけども、そういうものに左右されなくて、自由に使えるようなサポーターということで、学校が使いやすいようなサポーターということで、いろんなお願いをしています。あるいはサポートだけじゃなしに、外部から講師を招いて、何か指導してもらおうとか、そういうことも含めてできるような制度を、うちはつくったんですけどね。そういうことでやってみて、それが基本的には、全小中学校でやっていますので、小学校はそれに加えて、今年度は、特に小学校低学年に英語がこれから入ってきてますので、英語教材に使うとか、基本的には、同じようなメニューで今やっています。

だから、ばらばらなものではなく、予算額も決まっていますし、基本的には同じメニュー。ただ漢字検定なんかは、するしないという選択、若干ありましたけれども、基本的には同じようなメニューでやっていただいで、その中で進めているということがあります。それと保護者が、それを知ってるかといいますと、ホームページ等には掲載してありますが、どこまでそういう話が入ってるかというのはちょっと疑問はあります。メニュー的には基本、共通的なメニューとしていますので、ホームページとか、そういうところで、うちがこんなことしますというのをアピールしていくという

のが方法なんかなと思っています。

○前川委員　すると余り学校間の差はないということですね。

○田中こども・教育担当課長　学校ごとについては、そういう大きな差はありません。

○前川委員　予算額というのは、児童生徒数に比例する。

○田中こども・教育担当課長　もともと区に対してその教育委員会から出る予算というのは、区の児童生徒数に応じた額がきます。それをうちが、どう振り分けるかは、先生方と話をした上で。

○前川委員　大体1校いくらぐらい。

○田中こども・教育担当課長　トータルで590万、小中合わせて590万。それは一応、小学校12校、中学校5校ですから、ほぼそれに合う形でいってます。その中で、学校のほうがサポーターに使いたいとか、それ以外のものに使いたいとか、そこは学校のほうで一定選択していただいて、こう濃淡つけられるようにはしています。

○前川委員　大体、人に使ってると思ったらいい。

○田中こども・教育担当課長　人以外にそういった教材であるとか、そういうのもありますし、漢字検定をしてるところもあります。ただ大きいのは、このサポーターとか、そういう分が大きいわけですね。これはかなり学校のほうでも、やはり十分活用していただいている状況です。

○前川委員　例えば宣伝用にボールペンにA中学校とか、来てくださいとか、こういうのは余りないわけですね。

○田中こども・教育担当課長　発達障がいサポーター、表現としましては、一応全区的にこういう表現をしているんですけども、これは予算上はそういうことになっていきますけども、前も申したかもしれませんが、学校のほうでは、要するに先生が発達障がいサポーターとか、そういう言い方で、その方を呼んでるということはありません。別に保護者に対して、発達障がいサポーターの誰々さんとか、そういうこ

とは言ってませんので、予算措置の区分で、こういう表現させてもらってるんですけども。

○前川委員　もう二度と言いません。

○田中こども・教育担当課長　すみません。

○西岡部会長　宮田委員のほうから何か。

○宮田委員　すみません、またもとに戻るかもわからないんですけど、前も代理のほうから家庭教育のこれからとお聞きして今、ある程度の概要はお聞きしたんですけども、なかなか難しい問題もいっぱい入ってると思うんです。私たちも、小学校に出入りさせていただいておりますから、そこで保護者さんと親しくなって、お話を聞いたりとか、違う方から聞く話の中で、子どもにどう接したらいい、それが今この総合的な障がいという変な言い方なんですけど、いろんな障がいがあります。それを先ほど言われたように、親としては、認めたくないというのがあると思うんですね。でもやはり、それがその子にとって、認めるというのとは変な言い方なんですけど、親が心を開くことによって、子どもの接し方も違って来るやろし、みんなの見方も違って来ると思うんです。子どもは学校に行きたくても、親がとめる場合もあると思うんです。そういうふうになってくるとね、やっぱり、子どもたちは昼間、どこで遊ぶか、非行に走るじゃないですけどね、やっぱりある程度高学年になってくると、そういうことも出てくるので、いろんな部分を考えて、家庭教育はやっぱり、しっかりやっていかないといけないなというのはあります。

特に、運動会の明くる日、お休みになりますやん。聞きますと皆、子どもたちがゲームセンターに行っている。あれはすごいなと思うんですよ。と言うてね、親御さんもお仕事されてたら、子どもたちに何か食べときやって言ってお金渡すのが、それをそういうふうに使ってるのか、それをまた違う子が、言葉はどうかかわからないけど、喝上げじゃないけど、そういうことがあったりとか、いろんな事が出てくると思うんで、まずはさっきの朝食とか、いろいろ睡眠のこともあったんやけども、やはり、せ

めておにぎりぐらいは、自分でにぎろやないかというような家庭指導と言うか、忙しくても、それぐらいは子どもに、やっていってもいいのかな、そういうちょっとしたことでね、やっぱり地域にいてる私たちが、何をやっていけるかというのを、ちょっと考えていきたいと思ってます。

うちの生涯学習の連絡会のほうでも、区のほうで何かできることがあれば、区の連絡会として研修なり、いろんなことして、それを来てもらうことによって、いろんな各校下単位ではね、いろいろされてるとは思うんです。それとは別で、やっていけたらいいなという話をしてるんです。

なかなか本当に、難しいですよ。さっきも言われた、私たちがやってたPTAと今はほんまに全然違いますからね。いつも言われるように、私たちのときは、どっちな言ったら、働いてない親が半分以上、8割、9割でしたからね。今はやはりいろんな事情で、お仕事されてる方もおいでになるから、それをどういうふうにサポートしていったらいいか。子どもたちが、昔みたいに学校に遊びに行けるわけじゃなし、公園でも、野球はしたらあかん、ボール遊びしたらあかんと言われたら、子どもたちやっぱり、それ埋めるのに、暑かったり、寒かったりしたら、そういう施設に行きますのでね。校下を使ってというと、施設開放もあるけども、あそこも何か違うことだけに使ってるような気がするので、やっぱりそれをもっと昔みたいに、どこまでできるか時間はかかるとは思いますが、やっぱりそんなも含めて家庭教育とかそういうことに使っていったらいいのかなと思ってるんですけどね。

○西岡部会長　ほかに何か、ございませんか。

○木本委員　これひとり言ですけどね、これ、今いろいろ取り組み、こうあるでしょ。少子化、少子化言いながら何で保育園とか、幼稚園足らんとかね。学校は人減って、本当に高校とかはね。中学なんかは結構、ほかの守口市なんかでも、統合したりしてるでしょ。何で、こんなに幼稚園が足らんののかなというのがまず不思議なんです、やっぱりこういういろいろ見てても、結局は世の中の流れがこういう流れになってきて、

世帯も共働きが当たり前、子どもに対しても、自立を促してはいないけど、結果的に促してるんですよ、自然と。小さいときから、勝手にせえなんです。そこで、できる子はできるし、せん子はせんという、はっきり言ってもう2極化、3極化してると思うのね。

だから、それでこちらから、こういう会議を開いて、いろいろこう打ち出しやっても、やっぱり、どう言うんやろ。そこまで関心持ってる親って余りいないですわ。だから、幾ら一生懸命やっても、打ち出しても、そういう関心を持とうという親がいないと、結局やってる意味がないんですけど、その関心を出そうと思っても、持ってもらう方法がないかなと思うんです。PTAも限界にきてる、PTA自体、組織を維持するのが大変なところ結構あるから、そこにあれもこれもっていうのを行政からいわれると、やっぱり、ちょっとなっている雰囲気もありますしね。だからこれ時代の流れがこうなってきたらと思ってね、対応しないと何か堂々めぐりになってしまって、また来年も同じような話してるん違うかなと思う。

だから当然一つ一つの事業は一個一個成果を上げてはると思うんですけど、ここに目に見えて、鶴見のこういうふうな支援は、ようできてるとかは、余り聞けへん。当事者はそうかもしれないけれど、当事者以外の人間もやっぱりそういうのが見えるようことを、運んでいかないと、なかなかこういうふうな問題は解決できないし、また違う問題が出てくるかもしれないと思いますね。今はもうこの流れですわ。僕ら子どもころ、ほんまに学校に5時6時までおっても、怒られへんかったし、公園行っても、野球やったりしました。結局そのころって、そういう自由があって楽しかった。今は何かがんじがらめにし過ぎて、個というものを尊重してないんです、組織だけ尊重して、個人の個は余り尊重してない、結局右ならえ右、左向け左、そういう感じで指導するわけ。結果的にそうやって、極端になる子もおるといふのがあるんじゃないかなと思うんです。

だから臨機応変に物事を考える子って今少ないと思いますわ。勉強も遊びも、やん



ちやするの、絶対に。だからそこはやっぱり、うまいこと指導してやるのが、やっぱり僕ら親であるし、学校の先生かな、地域かな、何でもかんでも地域、地域におっかぶせるという部分のそういうふうな施策というのは、そういうつもりじゃないとは思いますが、余りそれはせんほうがいいんじゃないかな、また言ってきよったなというのが当然出てくるしね。その辺はもう少し、ソフトランディングできるようなやり方をもう一度考えて、前に進めてもらったらなと思います。

○宮田委員　でも、やっぱりね、言われるのは正論やと思うんですけどね、やっぱり私たちも区政会議にかかわったもんが、いかにそれをちゃんと下におろしていくかが大事やと思うんですよ。ここで話したことを、こういう話が出てたよと何かの折りに、それをやることによって一人が一人に伝えて、その人がまた一人に伝えると、どっかでやはり全区民の方、それこそ違うところでも私たちも交流しているところがあるので、やはりその人たちと話をすることによって、鶴見区が今こんなやってるよ、こんな新しい事やってるよと言ったら、またそこがさっき区長が言われたように、城東区にもさっきの幼稚園と保育所の話やないけども、やはり広がっていくと思うんです。やっぱり区政会議のメンバーとしても、これから、この後が私たちの大事なことかなとは思いますがね。どういうふうにそれをサポートしていけると言ったら変な言い方なんですけどね。

○西岡部会長　それでは、よろしいでしょうか、皆さん。ご意見のほうもね、かなり出していただいて。まだ何かあるんでしたら、よろしいですか。

○猿渡委員　啓発型が一番大事やと思うんですよ。さっき言ったんですけど、情報というのは、何ぼでもあるんです、今ね。ただ僕も親ですけど、親の責任で、選択せえって、それを。我が子にとって一番いいものを選択せえと常に何かこう、切っ先をのど仏に突きつけられてる状態なんですよね。何か強迫観念があるんですごく。それは仕事柄もあって、ちゃんと育てなあかんぞっていう、その小さい責任感かもわかんないんです。でも、そうやってやっていると、もう結構、閉塞感があって、やっぱり

間違いに対しては、あんまり寛容じゃない世の中なんで、余り間違われへん、特に指導的立場にある人間には、特に間違いが、チャンスがないですね、余りね。失敗をあげつらって大分批判というか、クレームをいただくこともあるし、そういうのに正直、僕なんかはびびっちゃって、置きに行こうかな思うときもあるんですけど。

でもやっぱり言わなあかんことというか、昔から言われてること、子育てのノウハウとかは、子ども、親、育てる世代が変わろうとも、変わるはずがないと、なぜなら子どもの発達が変わるわけがないので、絶対そこに寄せていかなあかんのやったら、もうやり方いろいろあるにしても、ここだけは譲られへんというところが絶対あるわけですね。それでさえ、親御さんたちの選択肢の中から漏れそうになる機会って、やっぱりすごく多くって、さっきのおにぎりの話なんか、え、そんなん言わんでもって思うことやけども、僕もよく言うんですよ。その、1年生なんかが、学童終わって帰って、飯の前に寝てもうて、晩飯を食わんという親御さん、疲れちゃって、帰ってから一瞬でできるおにぎりを口の中にほおばらせて、寝てもうたらいいじゃないですかと、一応晩飯食ったことになりますよねって言ったら、それでいいんですかって、食わんよりええと思うんですけどって言ったら、親御さんたちはすごく納得して、ほっとされる。できてないと、晩ご飯を食べさせずに寝かしてしまった、私はあかん母親や、になってしまうとね、どよーんとした顔で、集まりに来られて、先生、すみませんみたいな、子ども夕方公園に出してほしくないとまで言われるわけですよ。子どもは遊ぶために、今を生きとんのになっと思いながら、お話、事情聞くとそうやったというようなことがあったりとかする。

言ったら本当に子育てされてきた方々からすれば、当然のことであったり、当たり前前のことが、そうではないかのように捉えられるような、うちは手抜きな親じゃないんやろうかって思って悩んでる人に、手抜き料理教室っていうのがばんとあったら、え、いいのとか、本当にこうふわふわ右に左に振れるようなね、両極端の情報が常にあるんですよ。その中では本当に、上からでも下からでも構わないので、教えたら

かと言われることほど、ほっとするものではなくて、ありがとうございますって、すぐなるんですけど。何かこう、そういう啓発の機会が、一個でも二個でもあって、それこそ草の根やないですけど、一人か二人かが、あれよかったでって言うことが、ちょこっと変わるとかっていうのに、希望を持ってへんかったら、それはもう全て徒労に終わりそうで、僕はどきどきしてしまうんですよ。なので、僕は、今こうやって区政会議にかかわらせていただいていることを、周りの仲間たちもボランティアの仲間たちであったりとか、職場の仲間たちであったりとかと話して、だから鶴見区はおもしろいねんということを、言うわけです。

だから多分、木本さん、子どもがここは少子化がないんやと思うんです。世の中は少子化です、絶対的に。ただ、この鶴見区の何丁目かいわいは多分少子化はないんです、当分ないというのは、子どもがやっぱりどこ見ても、あふれかえってるんですよ。公園見ても、保育所見ても、小学校、茨田北小学校は、あれ結局、サブグラウンドだけになるっっちゃうことですか。この前、保育園で体育館をお借りして、びっくりしました。うち、しばらく学童に通ってまして、あそこから地下鉄乗って。小学校にもお迎えに行ったこと何度もあったんですけど、もういよいよ、サブグラウンドしかない。建てかえなんですか、あれは。

**○田中こども・教育担当課長** 建てかえ工事やってますんで、だからそれでかなり工事のエリアも広いんで、いろんなことでつぶされてるので。

**○猿渡委員** あれが全部、校舎になるわけではないですね。なるほど。こんなことになってる、またこの地域も子ども増えたんやと思って、どきどきしましたけども。あそこが分かれて、焼野小学校ができたんですもんね。

だからそんなんを見てると、何か、この地域は子どもが多いんやなど、どこを通っても何か常にマンションが建ってるような、建設現場が必ずあるようなところを見てみてもそうですし、鶴見区のおもしろいところというか、特徴というか、長所になるんじゃないかなと思うところなんですけどね。啓発のプログラムに関しては、選ばれない

場合も絶対あるとは思いますが、外すというか。ただもう、トライアンドエラーは絶対で、それは1回や2回の失敗でも、しくじりがあったとしても、それを責めていては多分広がりもしないし、継続もできひんと思うので、そこをカバーし合えるぐらいのものになるといいなあと思います。

○西岡部会長　あとほか、よろしいでしょうか。

それでは、意見交換のほうもこれぐらいにしたいと思います。

ここで、本日予定されている議題は全て終了となりますが、現在のメンバーで最後の会議ですので、せっかくですので、委員の皆さん、区政会議に参加しての感想など、今度は感想ですので、一言ずつお願いしたいと思います。そしたら、宮田委員のほうから。

○宮田委員　そうですね、先ほども言ったようにやはり区政会議に全ての人が、かわれるわけではないので、かかわらせてもらったことによって、すごく自分なりに勉強できたこととか、いろんな情報が得られたというのは、すごくありがたいなと思っております。また次の方が来られたときには、今までの話をちゃんとお伝えしといて、またその人なりの意見を言っていただけたらと思っておりますので、またよろしく願いします。

○前川委員　ここ2年間、この区政会議に参加させていただいて、本当にいい勉強になったと思っております。知らないことばかりで、この前の、愛Loveこどもフェスタも、こんなんいつからやっと思ったんやと思って、実際に参加する立場になって、こんないい行事をやっと思ったんやなというのが、鶴見区に住んで40年以上たってるんですけど、そういうところを踏まえて、この区政会議でいろいろなことを教えていただきました。僕なりの思いというのは、ちょっと、ここのアンケートにも書かせていただいておりますので、また後で読んでいただけたらと思っております。本当にありがとうございました。

○木本委員　僕もここ2年間、最初は区PTAの会長兼務でというか、来まして、

ひいては2年目でこう会議寄してもらいましたけど、いろんな中身の中で、どうしても子どものことって、やっぱり一番肝の部分かなというのは、思ってますし、皆さんからいろんな意見聞けて、よかったかなと。その意見聞いたことで、いいことを逆に自分の息子らにやろっと思っても、なかなか息子等言うこと聞かんというのは現実ですけど、それは置いといて、やっぱりいろんな意見があって、みんなそうやっている活動してるというのを知れてよかったなと一番に思ってますし、たまには地域の会議なんかのときとか、ちょっと話させてもらったりとか、仲間内で集まるとき、PTAの、こんなんやでというのがありますが、やっぱりなかなか伝わりにくいというところがあるから、さっきも言いましたけど、もう少し伝わりやすいようにっていう部分を考えてもらって、来期以降もこの会議がもっともっと盛り上がって、いい会議になってもらえるようにだけ祈って、これで挨拶を終わらせていただきます。ありがとうございました。

**○猿渡委員** 本当にアンケートにも書きましたけど、前提となる区の現状や、行政の仕組みについて、知識が不足しております、その中でまた意見なんていうことをしまして、本当に申しわけありませんでした。僕個人としては非常に勉強になりましたし、平たいものの言い方しかできないので申しわけないんですけど、鶴見区がますます好きになりました。僕は住まいであり、職場であり、生活がほぼ鶴見区で完結しておる人間です。よそ行きませんので、非常に鶴見区民であることを、僕は喜ばしく思っております。本当にありがとうございました。お世話になりました。

**○西岡部会長** そしたら最後私からということ。

私も、区政会議っていうのに参加させていただきまして、一番初めは、本当にちんぷんかんぷんで、何の話をしてはるんかというのが現実でした。それがこの中に入れていただきまして、いろんな地域の聞いたようなお話をさせてもらったりとか、また今、区役所のほうでは、こういう方向で、この鶴見区を進めていこうというプロジェクトに入ってるのかというのを、また地域の方に伝えることができたというのが、か

なりうれしく思っております。それにしても地域の方も、こんなに違うんかと思ってたことが、もうじきこうやって進んでいくねんやなということが、わかっていただいたと思いますので、今後ともこの区政会議というので、今まで培った経験も皆さんおありだと思っておりますので、今後もよろしくお願ひしたいと思っております。本当に2年間、ありがとうございました。

皆様、最後まで活発なご意見、ありがとうございました。

それでは閉会に当たり、河村区長から一言お願ひしたいと思っております。

**○河村区長** 皆さん、本当にお疲れさまでございました。またこの間、ありがとうございました。貴重なご意見もいただき、本当に我々、行政を進めていく上で参考になったというふうに思っております。

この2年間、世の中も大分変わってきたようには思いますけども、またその時々々の課題も出てきて、特にこの子ども教育に関する部分については、本当に世の中の動きが速いものですから、我々もその時々々の視点で、やっていかなあかんのです。皆様方に我々が気づかない視点からのご指摘も、たくさんいただきまして、本当にありがとうございました。また、引き続き委員のほうをやっていただける方もおられますけれども、今回で退任される方も、引き続きまた鶴見区を見守っていただき、また何かありましたら、お力添え、ご助言いただけたらなというふうに思っております。30年に向けて、また我々も今日いただいた意見をもとに、また新しい委員さんと、どういふふうなことをして行くかということを考えていきたいというふうに思っております。

本当に夜の遅い時間、またお忙しい中、貴重な時間をさいていただきまして、この会議に参加いただきましてありがとうございました。引き続き、頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。

**○西岡部会長** 最後に事務局のほうから、連絡事項はありますか。

**○日下保健福祉課担当係長** 多くの意見を頂戴いたしまして、本当にありがとうございました。

ございました。

最後に本日、お配りさせていただきますアンケートについて、ご協力お願いいたします。6月に実施いたしました区政会議においてもご協力をいただいたところではございますが、平成29年8月に策定いたしました大阪市政改革プラン2.0、区政編に基づき、大阪市の統一様式によるアンケートを実施することが必要となっております。再度お手数おかけしますが、申しわけございませんが、本日ご記入の上、お帰りいただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○西岡部会長　　ありがとうございました。

それでは、閉会とさせていただきます。

閉会　　20時15分